

藤ゼミ通信

VOL 61

向上心!

君の新学期を最高に充実させるために!

新学期は**希望**の始まり

- ・夏休みの怠け癖を解消しよう! 規則正しい生活習慣こそ学力アップへの第一歩
- ・チャレンジ精神を持ち続けよう! 挑戦する気持ちがなければ大きな成果は得られない
- ・真剣に自分自身を見つめ直そう! 素直な気持ちで反省しなければ何も改善されない
- ・夢をハッキリ言葉にしてみよう! 夢を叶えるための日々の努力が最高の充実感になる



当教室は、君の新学期を全力で応援します!

塾長からのメッセージ

とにかく君は

やり切れ



一度立てた計画をその計画通りに最後まで実行することは誰にとっても難しいことです。その難しさは大人も子供も関係なく、予想もしなかつたところご思われ障壁に合い、計画は中途半端に終了してしまったりします。

自分の目標がとて達成できずともない時、その目標を投げ出してしまふことは最も簡単ではありますが同時に最悪な行為でもあります。目標達成のために最後まで努力し続けることはとても苦しいことですが最高にか、こいいことでもあります。

やり切るということは目標を達成できた成功したということではありません。やり切るということは最後まで締めなかつたということです。

目標を達成すること以上に、最後まで諦めなかつたということの方がより価値がある時もあります。

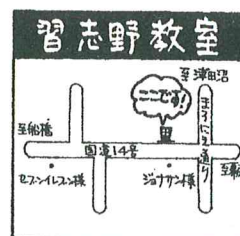
やり切ることは最後までけして諦めないことであり、その継続する強い意志こそ君に最高の充実感を与えてくれるものです。

君の目標のために 君はやり切れ!!

数検・英検・漢検 実施校!



志木市上宗岡4-6-27-131
048(472)7618 (昼間受付 月～金 PM12:00～)



習志野市谷津2-3-7
047(452)6461 (昼間受付 月～金 PM15:00～)

有限会社GANTS教育研究所

藤進ゼミナール

教室不在時はこちらへお問い合わせ下さい!

夜部 048(472)7819

好きな学問があれば老いることはありません！

草をしとねに木の根を枕 花と恋して九十年



若き日の思い出

(抜粋)

牧野 富太郎

私は自分の学問に対してあまり苦勞したことにはなかった。今日まで何十年におたる長い年月の間実に愉快に学問を続けてきて、ついに今日に及んだのであるが、平素その学問を特に勉強したようにも感じていないのは不思議である。

これは結局生まれつき植物が好きであったため、その学問があえて私に苦痛を与えなかったためである。

私は少年時代からたえず山野に出て植物を採集した。それが今日もなおやはり続いてその採集がとてたのしい。

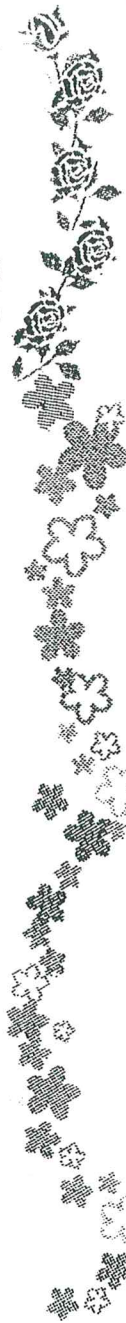
今から七十余年前、明治十三年の夏、私が十九歳の時、友人と二人で土予の国境近くにそびえる四国第一の高山、石槌山に採集に出かけた。まだその時分は洋服などなく日本着物であった。

(中略)



あくる年の明治十四年、私の二十歳の時、人足を一人つれて土佐幡多郡を広くまわって、植物の採集をした。その間、ほとんど一カ月を費した。……何といても植物は採集するほど、いろいろな種類を覚えるので植物の分類をやる人々は、ぜひとも各地を歩きまわらねばウソである。家にたてこもっている人ではとてもこの学問はできっこない。日に照らされ、風に吹かれ、雨に濡れそんな苦業を積んで初めていろいろの植物を覚えるのである。

(中略)



……これはただの遊びごとにしたことでなく、たとえ累しかったとはいえ、全く汗水流しての積極的採集で自分の学問のために努力したのである。それがため、私は植物の地理分布、種類などを自分から学ぶことができたのである。

私は一日もその学問から離れたことはなく次から次へと楽しく勉強を積んだわけだ。私ほど一生苦しまずに愉快に研究を続けて来た人間は世間になりに少ないようだ。それゆえ私は少年の時と今日老年になった時と、その学問のぐあいは少しも違っていなく、ただ一直線に学問の道を脇目もふらず通ってきたのである。

こんな数十年におたる努力が遂に私の植物知識の集積になったわけだ。今年九十三年に達した私はこれから先、体のきく間、手足の丈夫な間、また頭のボケ又間は、いまままで通り勉強を続けて、この学問に貢献したいと不断に決心している。

もうこの年になったとして決して学問を放棄してはいない。

1955年(昭和30年)初版発行

牧野 富太郎(まきの とみたろう)1862年~1957年(今年生誕150年) 高知県高岡郡佐川町出身の植物学者。「日本の植物学の父」といわれる。独学で植物学を学び、日本各地の植物を採集して歩き、多数の新種を発見・命名した。作成した標本は40万点、命名は2,500種以上(新種1,000、新変種1,500)とされ、自らの新種発見も600種余りとされる。また、すぐれた植物図を描き、植物採集会を指導するなど知識の普及にも尽力した。文化勲章受章。著書に「日本植物志図篇」「日本植物図鑑」などがある。

*しとね(褥)…ふとん・敷物。 *「草をしとねに木の根を枕、花と恋して九十年」は牧野富太郎自身の言葉。 *抜粋(ばっすい)…すぐれた部分や必要な部分を抜き出すこと。